



～今回のMPMについて、全回答者（150先）の91%が政策変更なしとの見方。3か月先の金利予想では、無担保コールON金利・国債金利ともに「上昇」の見方が、今年3月のマイナス金利解除と7月の追加利上げを決定した会合時の調査と同じ水準まで大幅に増加。

【調査の総括】

- 全回答者（150先）の91%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。一方、「引締」の見方は今年7月以来の増加に転じた（1% → 9%）。「緩和」の見方はいなかった。
- 3か月先の無担保コールON金利予想では、「上昇」を想定する先が今年3月・7月の調査時と同じ水準まで大幅に増加（67% → 95%）した。「不変」を想定する先は前回から減少（33% → 5%）し、「低下」を想定する先はなかった。
- 3か月先の国債金利予想では「上昇」の見方が前回10月調査時から更に上昇し、今年7月調査時以来の高水準となった（2年債：73% → 91%、10年債：70% → 84%）。一方、現状対比「不変」の見方は減少（2年債：27% → 8%、10年債：29% → 15%）した。「低下」の見方は2年・10年ともに全体の1%であった。

【調査の概要】

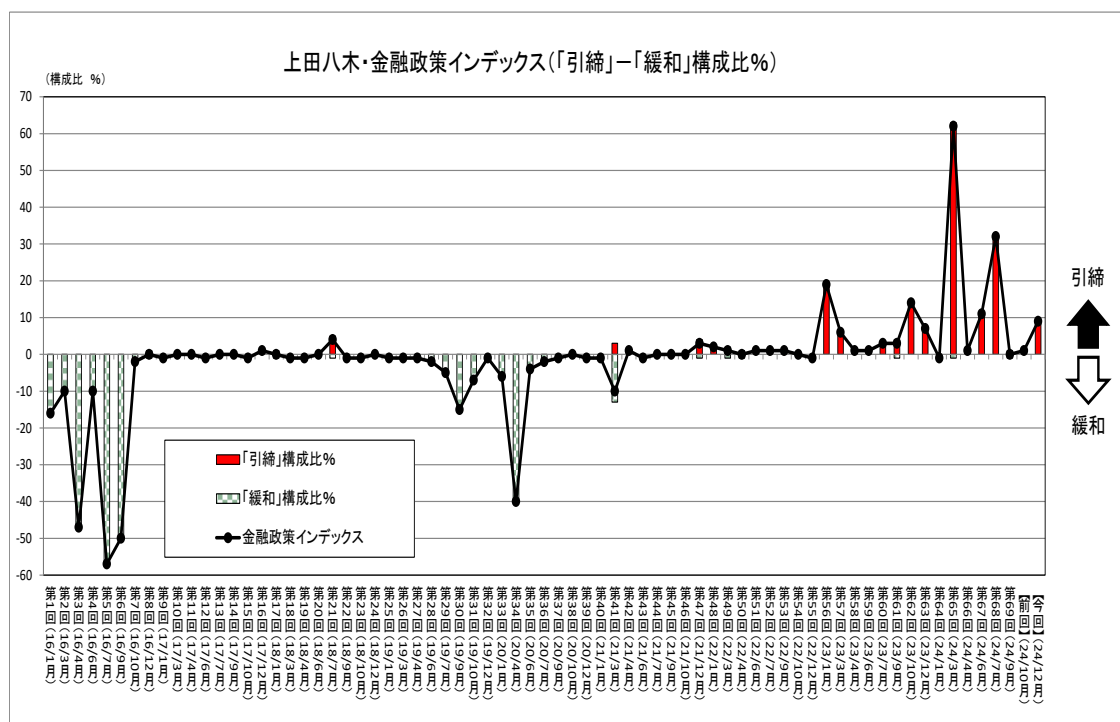
調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者（156先）
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2024年12月12日～16日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	96.2% （回答者数150先 < Q 1 における回答者数 >）

【調査の結果】

(Q 1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（12月18日～12月19日）における決定について

回答者の91%が「不変」の見方。「緩和」の見方は0%。「引締」は、9%。

上田八木・金融政策インデックス（「引締」－「緩和」構成比%）は、「9」（前回1）であった。



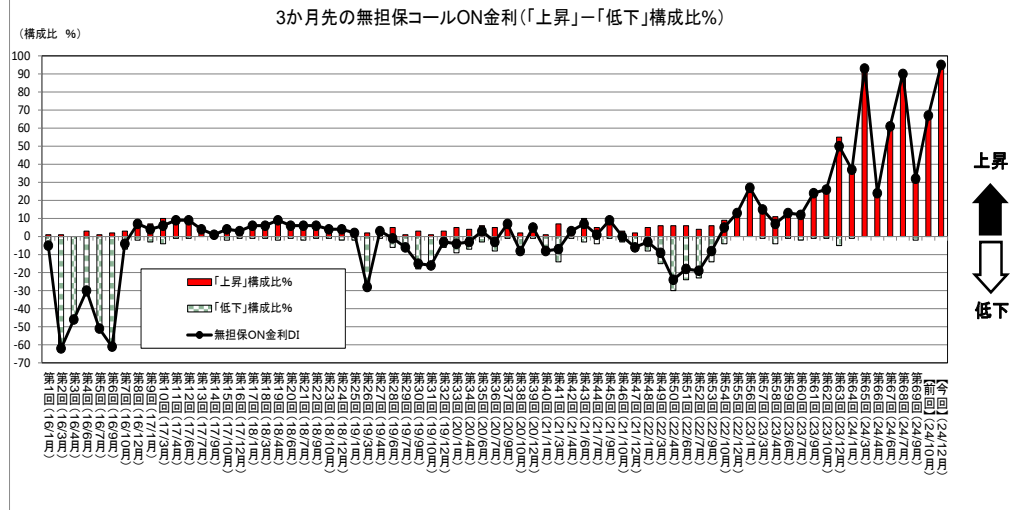
(Q 2) 3か月先の「無担保コールON金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の95%が「上昇」と予想、「低下」の予想は0%で、「不変」とみている先は5%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+28%ポイント(前回67% → 今回95%)。

「低下」とみる先は±0%ポイント(前回0% → 今回0%)。

「不変」とみる先は▲28%ポイント(前回33% → 今回5%)。



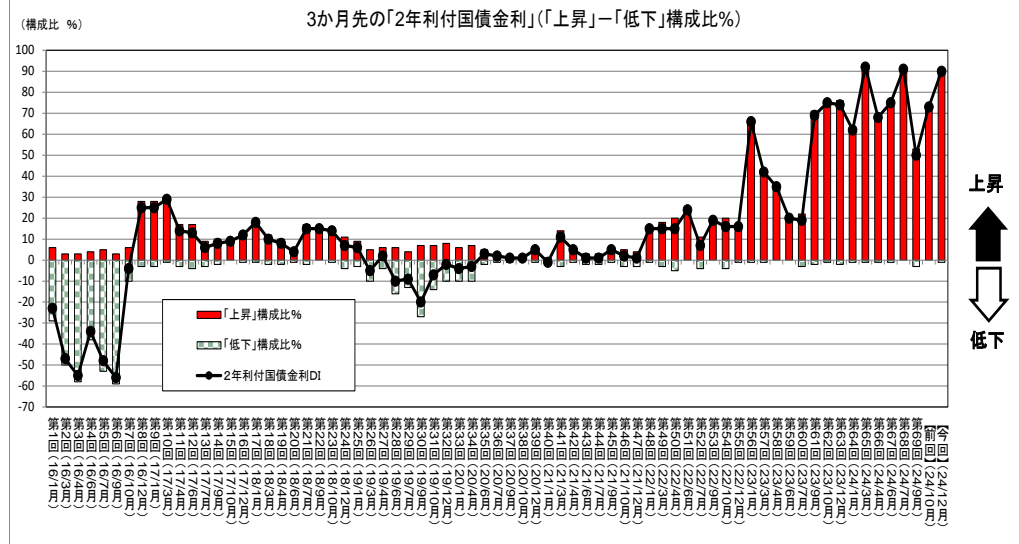
(Q 3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の91%が「上昇」を予想、「低下」とみる先は1%で、「不変」を予想した先は8%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+18%ポイント(前回73% → 今回91%)。

「低下」とみる先は+1%ポイント(前回0% → 今回1%)。

「不変」とみる先は▲19%ポイント(前回27% → 今回8%)。



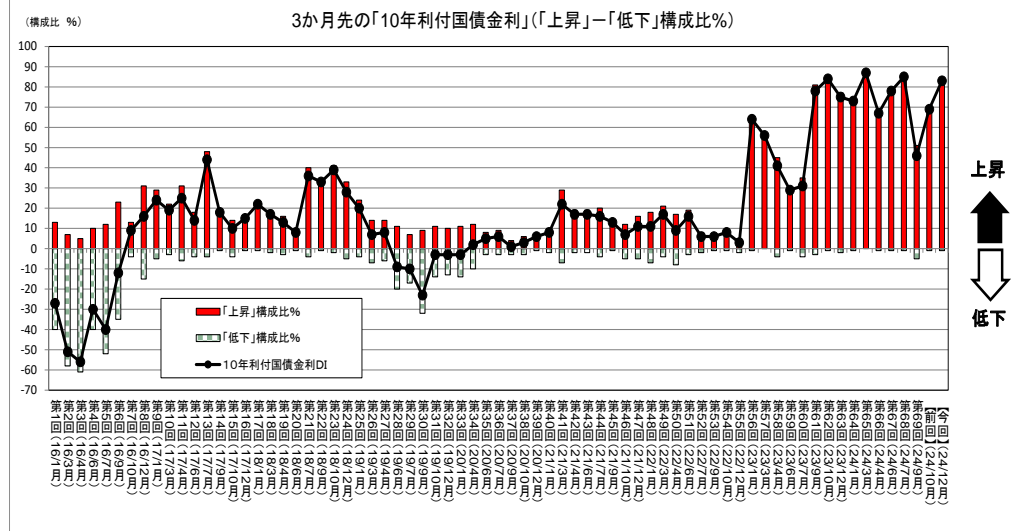
(Q 4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の84%が「上昇」を予想、1%が「低下」を予想、「不変」を予想した先は15%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+14%ポイント(前回70% → 今回84%)。

「低下」とみる先は±0%ポイント(前回1% → 今回1%)。

「不変」とみる先は▲14%ポイント(前回29% → 今回15%)。



【調査結果の詳細】

調査日	2024年12月12～16日
調査先	156先
回答率	96.2%

（Q1）日本銀行の次回の金融政策決定会合（12月18日～12月19日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
緩和	0 (構成比%)	0	± 0
不変	91	99	▲ 8
引締	9	1	+ 8
<hr/>			
上田八木・金融政策インデックス（「引締め」-「緩和」構成比%）	9	1	+ 8

（Q2）3か月先の「無担保コールON金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
低下	0	0	± 0
不変	5	33	▲ 28
上昇	95	67	+ 28
<hr/>			
短期金利予想DI	95	67	+ 28

（Q3）3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
低下	1	0	+ 1
不変	8	27	▲ 19
上昇	91	73	+ 18
<hr/>			
2年国債金利予想DI	90	73	+ 17

（Q4）3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回10月29日)	変化幅
低下	1	1	± 0
不変	15	29	▲ 14
上昇	84	70	+ 14
<hr/>			
10年国債金利予想DI	83	69	+ 14

【本調査に関する照会先】 企画部 島本、青木
(電話 03-3270-1475)

上田八木・金融政策サーベイとは

弊社と取引のある、銀行などの預金取扱等金融機関、証券会社、保険会社、事業法人などの幅広い市場取引関係者に対し、日本銀行の金融政策に関する予想や各種金利の先行き見通しについて、定期的にヒアリングを実施しているもの。調査時期は日本銀行の金融政策決定会合開催日（臨時開催を除く）の2～4営業日前としている。2016年1月に調査開始し、以後、一部の特別調査を除き、設問内容を変えずに継続しており、金融市場参加者を対象とした定点観測調査として、長期に渡る実績を有している。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。

記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長（登金）第243号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号 TEL：03-3270-1711（代表）

大阪本社 〒541-0043 大阪府大阪市中央区高麗橋2丁目4番2号 TEL：06-6202-5551（代表）

加入協会 日本証券業協会